

輸出事業計画

※申請者名：(株)ローソンファーム熊本、(株)世界市場

品目：みかん

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 熊本県のみかん生産量は、平成23(2011)年の90,400tから令和3(2021)年の90,000tと概ね横ばいで推移しており、毎年75,000t～95,000tの間で大きな増減を繰り返している（農水省「果樹生産出荷統計」）。
- また、耕作放棄地（荒廃園地）は平成23(2011)年から令和2(2020)年間に増加しており（9,192ha→9,559ha）（農水省「荒廃園地統計」）、生産者（基幹農業従事者）の高齢化も進んでいる（平均年齢 平成24(2012)年63.5歳→令和4(2022)年66.2歳）（農水省「農業構造動態調査」）。
- 今後日本の人口が減少し、国内消費量の減少が予想される中、国内販路のみでは経営上のリスクがある。
- 一方、日本のみかんは海外で人気が高く、台湾は日本産みかんの輸出先国・地域の上位第2位であり、輸出量・額は減少傾向にあるが（令和3(2021)年 柑橘で574t 4.0億円、令和4(2022)年494t 4.1億円：財務省『貿易統計』より）、輸出拡大実行戦略の国別輸出額目標において、平成31(2019)年（2.3億円）から令和7(2025)年（14億円）までに6倍以上とする数値目標が掲げられており、市場としてのポテンシャルは依然として高い。

【課題】

- **人材育成**
青果物の輸出拡大には、持続的な安定供給の実現のため、産地における輸出先国の規制に対応した生産・出荷活動等の中核となる人材育成が必要
- **残留農薬規制**
台湾の基準値に合致する栽培体系の確立と、その中での品質確保が必要
- **植物検疫に関する規制**
害虫の混入による、現地植物検疫における燻蒸処理を回避することが必要
- **栽培面積**
今後の出荷量拡大にむけて、栽培面積の拡大と各工程の作業効率の向上が必要
- **鮮度保持**
今後の出荷量拡大に向けて、収穫後の商品貯蔵庫・選果梱包施設等の設備の拡張が必要
- **コールドチェーン**
品質維持のために産地から輸出先までのコールドチェーンの確立が必要
- **コスト低減**
輸出先での価格競争力確保のため、各工程における輸送効率の向上と、歩留まりの改善が必要
- **販路**
輸出先における他国産産品等との過度な競争環境をさける販路開拓が必要

輸出事業計画

※申請者名：(株)ローソンファーム熊本、(株)世界市場

品目：みかん

2. 輸出事業計画の取組内容

・ 人材育成

ローソンファーム熊本で就農者を受け入れ生産現場における経験を、世界市場で流通・海外市場の現場の経験を積む等して中長期的にコアとなる人材を育成する

・ 残留農薬規制

世界市場のアセットを活用した、台湾向け防除暦作成・残留農薬検査・リスク評価サービスによりリスク管理・栽培支援を行う

・ 植物検疫に関する規制

出荷調整の工程に組み込む害虫対策工程を設計し、効率の追求を図る

・ 栽培面積

ローソンファーム熊本が圃場面積の拡大を進め、出荷量の拡大を図る

・ 鮮度保持

貯蔵庫・選果用の施設・機器の導入を進める

・ コールドチェーン

産地から港湾までのコールドチェーンを確立する

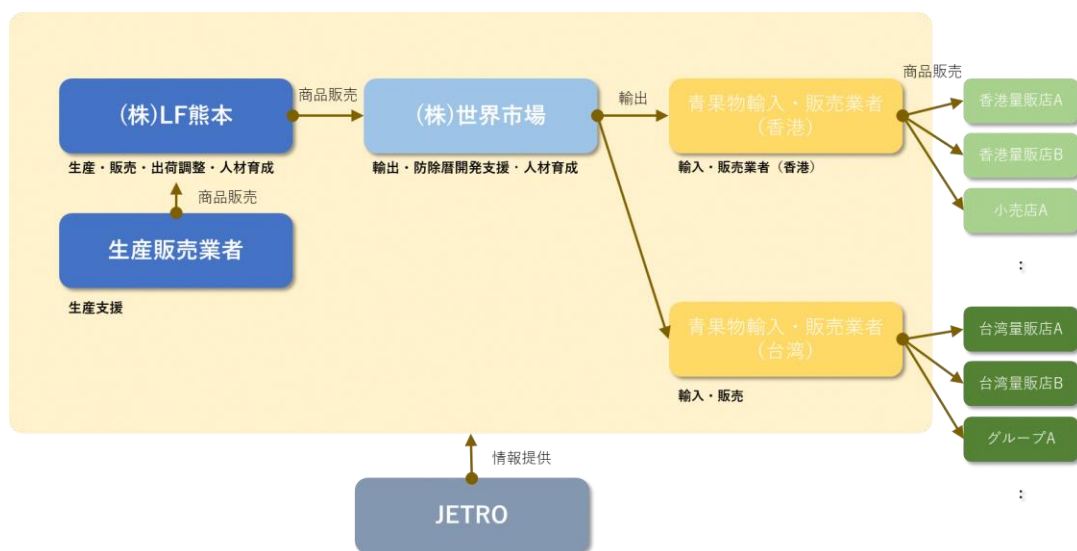
・ コスト低減

資材の開発等を通じ、各工程のコスト削減を図る

・ 販路

プロモーション等を活用しつつ、販路の多様化を進める

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



P:現地法人からの情報等に基づき、課題等把握の上、輸出事業計画を作成

D:計画に基づき実施

C:実績と他市場情報を踏まえた検証を実施

A:検証結果を踏まえ、計画の見直し・更新を行う

輸出事業計画

※申請者名：(株)ローソンファーム熊本、(株)世界市場

品目：みかん

4. 輸出目標額

品 目		現状 (令和 4 年園芸年度) 2022年 4 月～2023年 3 月	目標年 (令和 8 年園芸年度) 2026年 4 月～2027年 3 月
みかん	輸出量 (kg)	約 36,000	約 115,000
	輸出国先	香港、台湾	香港、台湾